

令和7年度 第32回
静岡県図書館大会
兼 令和7年度
全国公共図書館研究集会

全体会 ・ 第1～6分科会

期 日 : 令和7年12月1日(月)

会 場 : 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ

静岡県教育委員会
静岡県図書館協会
静岡県読書推進運動協議会
静岡県読み聞かせネットワーク
公益社団法人日本図書館協会
関東地区公共図書館協議会



大会アンケート

(12月17日(水)までに御回答ください。)

目 次

1	日程・会場案内	1
2	会場案内図	2
3	開会式	4
4	表彰式	5
5	講演会	9
6	分科会一覧	15
7	講師おすすめの本	17

※申し込んだ分科会の変更はできません。

来年度の静岡県図書館大会開催予定

日 程：令和8年12月7日（月）

会 場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

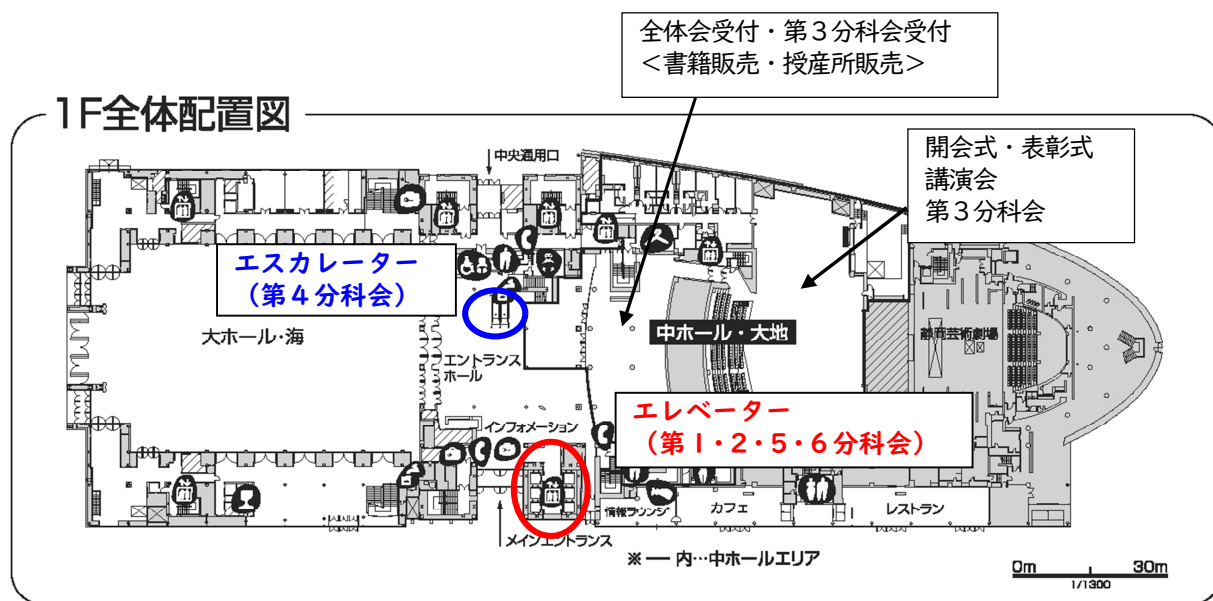
I 日程・会場案内

時間	内容	階	会場
9:30～10:00	全体会受付	1階	中ホール大地 1階ロビー
10:00～10:30	開会式・表彰式	1階	中ホール大地
10:45～12:15	講演会 「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係： 図書館の蔵書傾向および書店支援」 講師 大場 博幸 氏（日本大学文理学部教授）	1階	中ホール大地
12:15～12:25	諸連絡		
13:00～13:30	分科会受付	各分科会会場	
13:30～15:30	分科会		
第1分科会 図書館サービス① 「みんなの図書館とまちづくり」 講師 土肥 潤也 氏（みんなの図書館さんかく館長）		9階	会議室 910
第2分科会 図書館サービス② 「誰もが楽しめる電子図書館～将来性と活用のヒント～」 講師 家禰 淳一 氏（愛知大学文学部人文社会学科教授）		10階	会議室 1002
第3分科会 子どもの読書活動 「へなそうるの森から くらしと物語」 講師 渡辺 鉄太 氏（児童文学者・翻訳家）		1階	中ホール大地
第4分科会 学校図書館 「POP王に学ぶ！学校図書館で活かすPOPの力」 講師 内田 剛 氏（ブックジャーナリスト）		6階	交流ホール
第5分科会 大学図書館 「図書館と展示～企画展示が導く知識との出会い～」 講師 河合 郁子 氏（東京都足立区 図書館サービスデザイン担当課長） 的場 ひろし 氏（静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科教授）		10階	会議室 1001-1
第6分科会 全国公共図書館研究集会 事例報告「静岡書店大賞：静岡県の読書推進に向けて」 河合 雅哉 氏（第12回静岡書店大賞事務局長） 調査報告「人口減少社会における図書館と地域の関係性とこれからのあり方」 大谷 康晴 氏（青山学院大学コミュニティ人間科学部コミュニティ人間科学科教授）		10階	会議室 1001-2
15:40～16:30	研究協議 司会・コーディネーター 大場 博幸 氏 登壇者 河合 雅哉氏・大谷 康晴 氏・高橋 健二 氏（静岡県立中央図書館館長） ◎ 午前の講演会、午後の事例報告、調査報告をふまえた内容となります。 ◎ 第1～5分科会終了後、研究協議、情勢報告の聴講を希望される方は参加可能（申込不要）です。		
16:30～16:55	情勢報告 植松 貞夫 氏（公益社団法人日本図書館協会理事長）		
9:30～16:00	書籍販売 15:30頃～16:00 サイン会 第3分科会講師：渡辺 鉄太 氏	1階	中ホール大地 1階ロビー
12:15～13:45	授産所販売 パウンドケーキ・クッキー等（数に限りがあります）		

2 会場案内図

	時 間	階	会場
全体会受付	9:30～10:00	1階	中ホール大地ロビー
開会式・表彰式	10:00～10:30	1階	中ホール大地
講演会	10:45～12:15	1階	中ホール大地
分科会受付	13:00～13:30		各会場
第1分科会 図書館サービス①	13:30～15:30	9階	会議室910
第2分科会 図書館サービス②		10階	会議室1002
第3分科会 子どもの読書活動		1階	中ホール大地
第4分科会 学校図書館		6階	交流ホール
第5分科会 大学図書館		10階	会議室1001-1
第6分科会 研究集会	13:30～17:00	10階	会議室1001-2

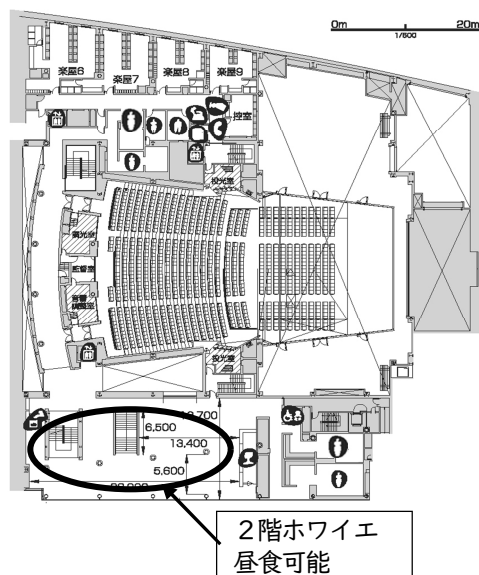
※昼食可能スペース（中ホール、中ホール2階ホワイエ、9階会議室903、904、908）



- 多目的トイレ
- 女性用トイレ
- 給湯室
- クローク
- 自動販売機
- トイレ
- エレベーター
- ドリンクコーナー
- 洗濯室
- 電話
- 男性用トイレ
- 託児室
- ロッカー
- 水飲み場

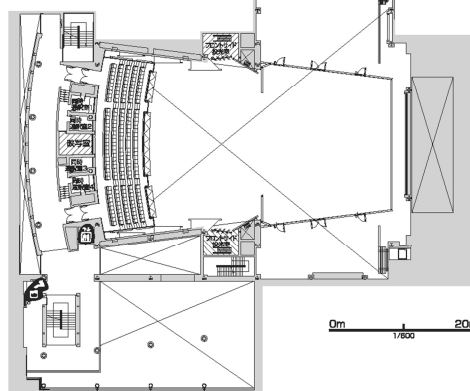
● 中ホール 2F

※客席は1,209席/ターンの場合



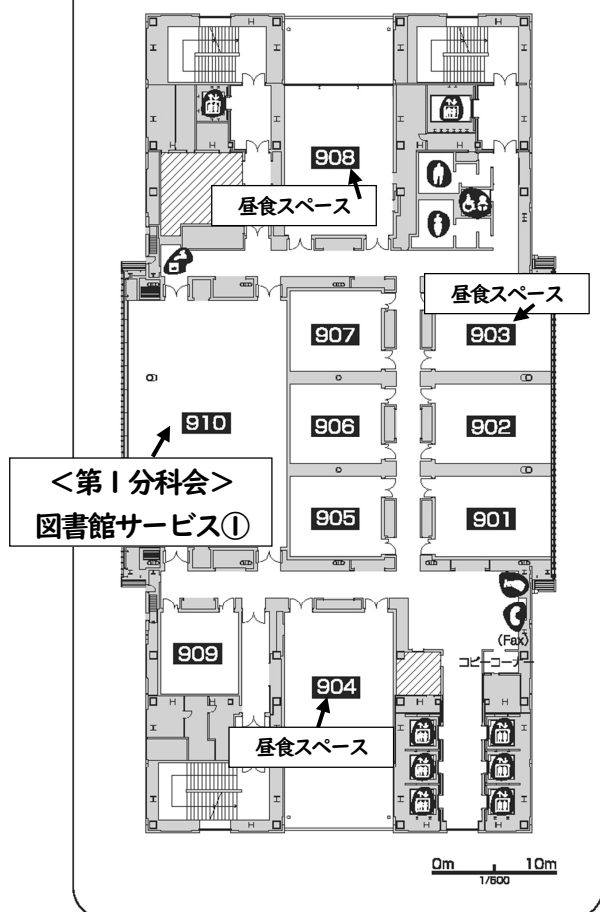
● 中ホール 3F

※客席は各/ターンの共通
※舞台上部は1,209席/ターン

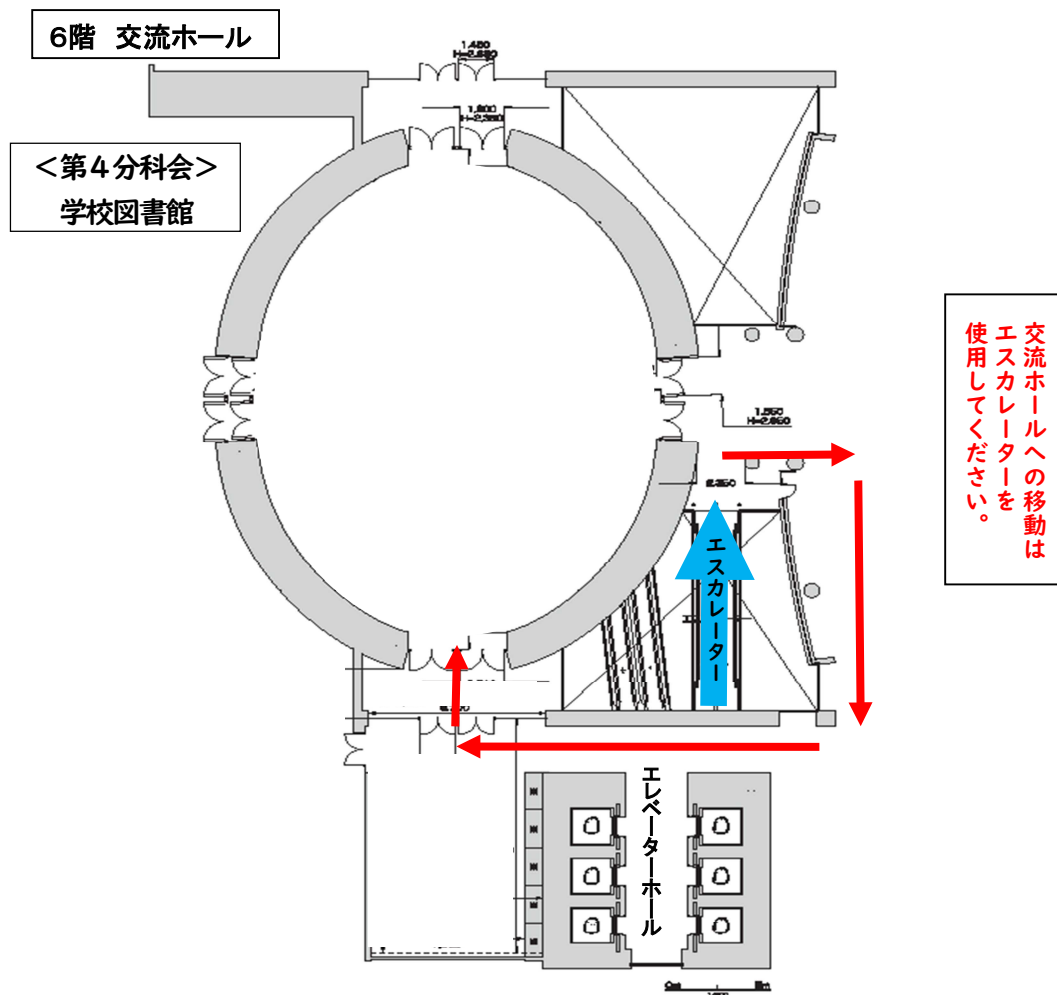
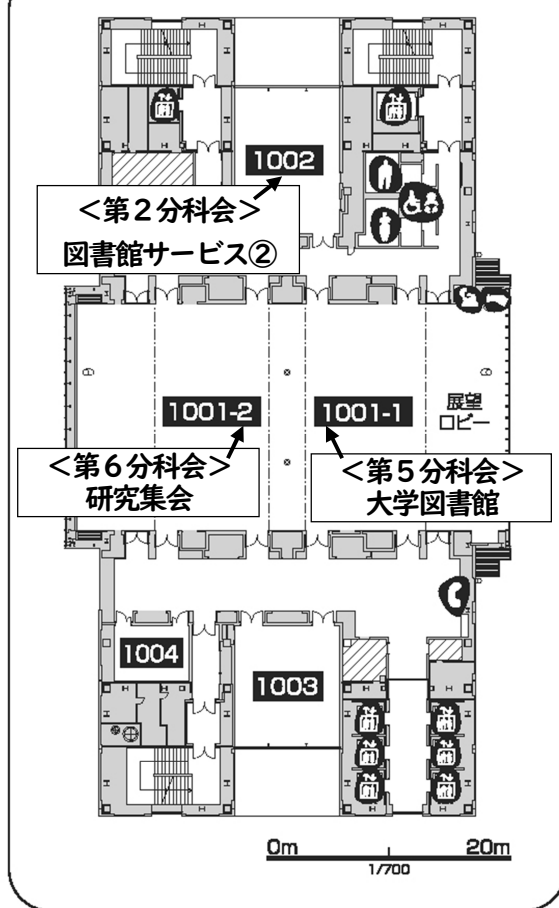


※中ホールトイレ
男性用：1Fのみ 女性用：1F、2F
3Fにトイレはありません。

9F全体配置図



10F全体配置図



3 開会式(1階 中ホール大地)

司 会 静岡県図書館協会 図書館大会運営委員会
委員長 山梨 和美（静岡市立中央図書館）

主催者挨拶

静岡県図書館協会会長

高橋 健二（静岡県立中央図書館館長）

主催者紹介

静岡県読書推進運動協議会会長

伊藤 博

静岡県読み聞かせネットワーク会長

勝山 高

4 表彰式(1階 中ホール大地)

- (1) 優良読書グループ表彰
- (2) 社会教育功労者表彰(文部科学省)
- (3) 全国公共図書館協議会表彰
- (4) 静岡県図書館協会表彰

受賞者(敬称略)

(1) 優良読書グループ表彰

ア (公社)読書推進運動協議会長賞

「富士市学校読み聞かせネットワーク」(富士市)

富士市学校読み聞かせネットワークは、「富士市内の小中学校で読み聞かせ活動をする各団体が、より質の高い活動をするための連携・情報交換の場としてのネットワーク」として2010年に発足しました。

現在は富士市立中央図書館に協力いただき、運営は静岡県子ども読書アドバイザー16名と富士市内の小中学校で活動する読み聞かせボランティアの会員の皆さんと年3回の例会(勉強会)を行っています。勉強会では、役員が講師となり読み聞かせの基本(本の持ち方・読み方・発声について)や選書では(学年別・科学本などの種類別・読み比べなど)絵本の読み聞かせや語りを役員の実演などで紹介しています。人の読み聞かせを聞くこと、本の持ち方や発声などの実践で能動的な勉強に、グループトークでの意見交換で他校と交流の場となっています。情報は各団体へ持ち帰り共有することで、よりよい読み聞かせの時間になると期待しています。

2023年度より「読み聞かせ勉強会」年9回を開講、松岡享子さん著「えほんのせかいこどものせかい」をテキストに富士市内で読み聞かせの活動をしている方、興味のある方へ読み聞かせの基本を伝えています。

「例会」「読み聞かせ勉強会」の参加が増えていることに読み聞かせへ関心をよせていることがわかります。今後も参加して下さる皆さんと研鑽し各学校で子どもたちにお話を届けていきます。

イ 静岡県読書推進運動協議会長賞

(ア) 「上野小 PTCA 読書サポーター・トトロの森」(富士宮市)

上野小PTCA読書サポーター・トトロの森は、1988年に発足し、今年で活動37年目となるボランティア団体で、会員数は24名です。

2024年度の主な活動は、読み聞かせと語り(年16回)、練習会(年4回)、学級文庫整備と学校図書館清掃(年14回)、お便り発行(年3回)、卒業記念展示「6年間で読んだ本」作成(年1回)、絵本講座(年1回)、PTA主催「上野小ふれあいまつり」参加(年1回)、富士宮子どもと読書の会主催「交流会」(年5回)とイベント「ねえこの本よんで！」(年1回)参加。

この表彰を励みにこれからも学びを深め、保護者・学校・地域で連携して子どもたちに楽しいおはなしのひとときを届けていきます。

(イ) 「くまさんクラブ」(静岡市)

私達は平成14年、図書館の個人ボランティアの第1期生として出会い、平成22年に発足、現在は4名で活動しています。

図書館で開かれている赤ちゃん向けおはなし会「おはなしコアラ」を主に活動しています。

振り返れば15年、メンバーも熟年から高齢へと向かう中で介護や孫育ての手助けをしながら、なかなか会う機会の少ない中で自己研鑽し、あたたかく楽しいおはなし会になるように努めています。メンバーそれぞれの持つ雰囲気大切に、読み聞かせの世界を作っていくことが目標です。

おはなし会に来てくださるみなさんとの素敵な出会いとみなさんが笑顔で帰っていただけるように、そして絵本の楽しさを知っていただけるようにメンバー一同心掛けていきたいと思っています。

(ウ) 「まきのはらし図書館友の会」(牧之原市)

まきのはらし図書館友の会は、地元図書館と良好な関係を築きながら応援活動を続けています。会員は本好きで、おはなし会や図書ボランティアなどを通じて図書館の魅力を広めています。

図書館は過去を探り、未来を描き、今を生きる力を与えてくれる場所です。多くの人がその魅力に触れ、世界への視野を広げてほしいと願っています。

設立以来、図書館のPRや図書館協議会の設置などを提案してきましたが、牧之原市立図書館の整備拡張に伴い、活動内容の見直しも必要です。今後も適切な距離を保ちつつ、図書館を支える活動を続けていきます。

(エ) 「時間のはこぶね おはなし会」(河津町)

私達は「小学生だからこそ読み聞かせ」を合言葉に小学生だからこそ読んでほしい、心を動かす力のある絵本、夢の世界への希望がもてる絵本、ナンセンスな世界の面白さを味わえる絵本など、季節や子どもたちの生活に合わせ絵本を選び、毎週読み聞かせをしています。

小学生の時期は本の持つ力を素直に受け止め、生かせる大切な時期です。その大切な時期に、本の持つ魅力にどっぷり浸かってほしいと私達は願っています。

そして、もう一つの役割は、子どもたちの安心安全な居場所としての存在です。ここに行けば、自分を受け入れてくれる誰かがいる。ちょっと行ってみようかな？と思えるそのような場所(人)として、これからも活動を続けていきます。

(オ) 「おはなしの会 ピロシキ」(南伊豆町)

子供達が絵本を通して心豊かに育ってくれる事を願って活動している読み聞かせのボランティアグループです。南伊豆を拠点とし、今年で発足25年。活動内容は、子供向けの公演会、クリスマス会、各小学校での春と秋のお話し会を行っています。読み聞かせだけでなく、エプロンシアターやパネルシアター、またピアノの生演奏と共に朗読をするスクリーンシアターも特色の一つです。

活動を続けていく中で絵本や童話は、子供だけのものでなく、大人の心にも深く響くすばらしいものが沢山ある事を実感し、多くの方にこの世界を知ってもらいたくて15年程前から大人向けの公演会も行っています。ワクワクする気持ちを大切に今後も続けていきます。

(カ) 「函南町点字グループ」(函南町)

私達函南町点字グループは、現在7名で活動しています。

主に小学校の福祉授業、視覚障害者の方から依頼の文書の点訳、又選挙の時に候補者の資料作成等で、町にも協力しています。広報も点訳しています。又函南町立図書館に点訳本50巻以上納入させていただき27回の貸出実績もあります。

月1回の定例会で、点訳の技術向上と勉強に取り組んでいます。

又小学校のクラブ活動も今年で12年になり、「難しかったけど打つのが楽しかった」「点字の決まりを知れて良い経験になった」「家でもやってみたい」との小学生の声や、手が痛くなったと言いながらも真剣に点字を打つ姿に、私達もやりがいを感じています。

各種行事やイベントにも積極的に参加し、点字の紹介をしています。

(2) 社会教育功労者表彰（文部科学省）

氏名	所属
伊藤 博	静岡県読書推進運動協議会

(3) 全国公共図書館協議会表彰

氏名	所属
増田 曜子	静岡県立中央図書館
志村 典子	三島市立図書館
木本 千珠子	三島市立図書館

※県図書館協会加盟館一覧順
所属は令和7年3月31日現在

(4) 静岡県図書館協会表彰

氏名	所属
眞子 みな	静岡県立中央図書館
殿岡 容子	静岡県立中央図書館
野沢 佳奈子	静岡県立中央図書館
飯塚 享子	静岡県立中央図書館
飯塚 悦子	伊豆市立中伊豆図書館
石田 康基	三島市立図書館
名倉 和美	裾野市民文化センター図書室
伊海 律子	沼津市立図書館
内藤 真由美	沼津市立図書館
藤澤 都雪	富士市立西図書館
鈴木 富貴	富士市立中央図書館
祢次金 優子	富士市立富士文庫
鈴木 綾乃	富士宮市立中央図書館
高橋 沙織	富士宮市立中央図書館
伊藤 優	静岡市立中央図書館
平田 磨美	静岡市立御幸町図書館

氏名	所属
坂田 祐季	静岡市立藁科図書館
太田 明穂	菊川市立図書館菊川文庫
中山 元博	掛川市立中央図書館
米山 弘味	掛川市立大須賀図書館
芹澤 由美子	袋井市立浅羽図書館
伊与田 都已	浜松市立中央図書館
鈴木 紀予	浜松市立中央図書館
瀬崎 安史	浜松市立中央図書館
池川 里果	浜松市立中央図書館
山田 恵	東伊豆町立図書館
斉藤 のぞみ	静岡大学附属図書館
柴田 佳寿江	浜松医科大学附属図書館
宮崎 智加	聖隷クリストファー大学図書館
清水 明	静岡県立大学短期大学部附属図書館
片瀬 紀子	静岡県立大学短期大学部附属図書館

※県図書館協会加盟館一覧順、
所属は令和7年9月1日(退職者は3月31日)現在

5 講演会（1階 中ホール大地）

「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係 ：図書館の蔵書傾向および書店支援」

大場 博幸氏（日本大学文理学部教授）

過去四半世紀にわたり図書館によるベストセラーの複本所蔵は批判を招いてきました。また蔵書に政治的な偏向があるとも疑われてきました。本講演では、実証データに基づいた平均的な蔵書傾向を示し、偏りや書籍市場への影響の実態について明らかにします。あわせて、近年政府が主導する書店支援の動向についても報告します。

講師略歴

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程図書館・情報学専攻単位取得満期退学。

2008年より常葉学園短期大学（当時）講師兼図書課長。2013年文教大学文学部准教授を経て、2018年より日本大学文理学部准教授、2021年より現職。

2023年から開催された「書店・図書館等関係者における対話の場」では座長を務めた。

公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援

大場博幸（日本大学文理学部）

1 小売書店支援論と図書館

2023年5月に自民党の書店議連「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」が岸田内閣に提言書を提出し、政府による小売書店支援政策が検討されることとなった。議連の認識では、図書館と書店は共存できておらず、①新刊の貸出・複本を抑制するルールが必要であるという。また②図書館との取引によって地域の書店の経営を支援できる可能性があるともする。議連の認識は妥当だろうか。

2 図書館所蔵の論点

1) 需要か質か、2) 主題の多様性、3) 対立意見間の中立性、4) 書籍市場との関係

3 教養新書：特定シリーズの優位

2004年4～6月発行の教養新書234タイトルについて、2005年に全国276自治体の市町村立図書館の所蔵を調査した。結果を表4-3に示す（表番号は『日本の公立図書館の所蔵』に準拠する）。

表4-3 所蔵上位40タイトル(順位/タイトル/著編者/シリーズ/所蔵冊数)					19 人生を肯定するもの、それが音楽	小室等	岩波新書	266
1	死の壁	養老孟司	新潮新書	553	20 判断力	奥村宏	岩波新書	265
2	頭がいい人、悪い人の話し方	樋口裕一	PHP新書	753	21 イスラーム主義とは何か	大塚和夫	岩波新書	262
3	上司は思いつきでものを言う	橋本治	集英社新書	398	22 政治献金	古賀純一郎	岩波新書	262
4	憲法読本[第3版]	杉原泰雄	岩波ジュニア新書	334	23 スコットランド 歴史を歩く	高橋哲雄	岩波新書	252
5	樋口一葉	関礼子	岩波ジュニア新書	329	24 世界経済入門[第3版]	西川剛	岩波新書	251
6	怒りの方法	辛淑玉	岩波新書	328	26 戦後政治の崩壊	山口二郎	岩波新書	246
7	本 起源と役割をさぐる	犬養遼子	岩波ジュニア新書	325	25 橋子の話	毛利秀雄	岩波新書	246
8	新・歩いて見よう東京	五百沢智也	岩波ジュニア新書	317	27 ひとり旅は幸し	池内紀	中公新書	202
9	デジカメ自然観察のすすめ	海野和男	岩波ジュニア新書	316	28 味のなんでも小事典	日本味と旬学会編	ブルーバックス	197
10	日本の農業を考える	大野和興	岩波ジュニア新書	312	29 裸に裸けた1778話	岩村卓	新潮新書	193
11	地球は火山がつくった	鎌田浩毅	岩波ジュニア新書	305	30 カラー版 ギリシャを巡る	秋野矢野記	中公新書	192
12	野口英世	井出孫六	岩波ジュニア新書	302	31 イラク建国	阿部重夫	中公新書	189
13	学習力トレーニング	海保博之	岩波ジュニア新書	301	32 脳と意識	川島雄太・安達忠夫	講談社現代新書	184
14	古典がもっと好きになる	田中貴子	岩波ジュニア新書	300	33 カラー版 通説が語るアジア	大村次郎	中公新書	180
15	フィールドワークは楽しい	岩波書店編集部	岩波ジュニア新書	289	34 座名のゲーテ	斎藤孝	光文社新書	180
16	日本縦断 徒歩の旅	石川文洋	岩波新書	286	35 物語スペインの歴史 人物篇	岩根園和	中公新書	179
17	教科書が危ない	入江曜子	岩波新書	274	36 戦前に読む	玄侑宗久	新潮新書	176
18	障害者とスポーツ	高橋明	岩波新書	273	37 幕末歴史散歩 東京篇	一坂太郎	中公新書	174
					38 超ひも理論とはなにか	竹内薫	ブルーバックス	172
					39 演技と演出	平田オリザ	講談社現代新書	168
					39 「分かりやすい文章」の技術	藤沢晃治	ブルーバックス	168
					41 循環型社会	吉田文和	中公新書	166
					41 算数オリンピックに挑戦 00～03年度版	算数オリンピック委員会編	ブルーバックス	166

4 統計分析の基礎

5 一般書籍：主題の多様性

2006年1～6月発行の一般書籍4,578タイトルについて、2010年上半期に全国1,098自治体（公民館図書室・学校図書館などを含む）の所蔵を調査した。表6-4に、Cコード各カテゴリと出版社コード、新刊価格、選定図書、Bingでのヒット件数、Amazon.co.jpのカスタマーレビュー

一数およびランキングの加工値を説明変数、所蔵数を目的変数としたトービットモデルによる重回帰分析の結果を示す。

表6-4 ln所蔵数へのCコード販売対象ほか要因の重回帰分析 (Tobit モデル / 係数とロバスト標準誤差)			
(2)			
C-CODE1桁 0 一般	(基準カテゴリ)	C-CODE3桁 0 総記	-0.608 (0.254) *
C-CODE1桁 1 教養	-0.299 (0.145) *	C-CODE3桁 1 哲学・宗教・心理学	0.788 (0.134) ***
C-CODE1桁 2 実用	0.001 (0.107)	C-CODE3桁 2 歴史・地理	1.505 (0.132) ***
C-CODE1桁 3 専門	-0.730 (0.094) ***	C-CODE3桁 3 社会科学	0.379 (0.112) **
C-CODE1桁 5 婦人	1.066 (0.188) ***	C-CODE3桁 4 自然科学	(基準カテゴリ)
C-CODE1桁 6 学習参考書(小中)	-2.913 (0.402) ***	C-CODE3桁 5 工学工業	0.303 (0.142) *
C-CODE1桁 7 学習参考書(高校)	-3.588 (0.338) ***	C-CODE3桁 6 産業	0.668 (0.215) **
C-CODE1桁 8 児童	1.424 (0.179) ***	C-CODE3桁 7 芸術・生活	-0.186 (0.127)
C-CODE1桁 9 雑誌扱い	0.393 (1.928)	C-CODE3桁 8 語学	-0.626 (0.199) **
C-CODE2桁 0 単行本	(基準カテゴリ)	C-CODE3桁 9 文学	1.206 (0.116) ***
C-CODE2桁 1 文庫	-0.699 (0.097) ***	出版社コード	0.301 (0.028) ***
C-CODE2桁 2 新書	-0.649 (0.133) ***	ln新刊価格	0.029 (0.064)
C-CODE2桁 3 全集・双書	-0.261 (0.106) *	選定図書	1.541 (0.062) ***
C-CODE2桁 4 ムック・その他	-0.910 (1.927)	lnBing件数	0.463 (0.045) ***
C-CODE2桁 5 事・辞典	0.929 (0.221) ***	lnAmazon評数	1.725 (0.189) ***
C-CODE2桁 6 図鑑	0.865 (0.434) *	BcAmazon需要	-0.531 (0.085) ***
C-CODE2桁 7 絵本	0.245 (0.220)	切片	6.679 (0.939) ***
C-CODE2桁 8 磁性媒体など	-2.835 (0.442) ***	対数尤度	-8392.146
C-CODE2桁 9 コミック	-2.622 (0.726) ***	AIC	16852.29
		サンプルサイズ	4562
		打ち切りサンプル数	620

†:p<0.1 *:p<0.05 **:p<0.01 ***:p<0.001

C-CODE 販売対象について、「一般」を基準とすると所蔵が多いのはカテゴリ「児童」「婦人」で、少ないのは「学習参考書」「専門」「教養」である。

C-CODE 発行形態について、「単行本」を基準とすると所蔵が多いのはカテゴリ「事・辞典」「図鑑」で、少ないのは「コミック」「ムック他」「文庫」「新書」「全集・双書」「磁性媒体など」である。

C-CODE 分類について、「自然科学」を基準とすると所蔵が多いのは「文学」「歴史・地理」「哲学・宗教・心理学」「産業」「社会科学」「工学工業」で、少ないのは「語学」「総記」である。

上のほか、推薦図書リストに選定された否か、ネットでの言及数で示される需要の高さ、出版社の信用の高さ、が所蔵数とプラスの相関のある要因となる。

6 意見対立のある主題：中立性

1992年～2015年6月発行の「集团的自衛権」を主題とする書籍91タイトルについて、2015年7月に全国5,003の公立図書館の所蔵を調査した。

結果を表8-2に示す。賛成・否定本で出版点数に違いがある(A)が、一点当たりの所蔵数に直すと均等に近づくことを指摘できる(C)。

表8-2 賛否別の所蔵数と需要				
	(A) 点数	(B) 所蔵数	(C) 一点当たりの 平均所蔵数	(D) Bing件数の 平均値
賛成	19	3,053	160.7	16.16
否定	60	11,152	185.9	12.98
不明・中立	12	669	55.8	8.67
計	91	14,874	163.5	13.08
(岩波除否定)	52	6,380	122.7	11.19

所蔵に関係すると考えられる質や需要などの指標——書評数、価格、出版年など——を説明変数に加えて統制し、賛否と所蔵数との関係を重回帰分析によって検証したところ、出版社の信用との強い相関が確認された（表 8-3）。「集团的自衛権」を主題とした書籍に限れば、否定本を多く発行する特定出版社への所蔵の偏りが見られた（表 8-4）。

表8-3「集团的自衛権」本の 所蔵数に影響する要因の重回帰分析 (GLM：負の二項分布, リンク関数はlog)				表8-4 出版社コード別の所蔵数			
	係数	ロバスト標準誤差	限界効果	(A) 点数	(B) 所蔵数	(C) 一点当たりの 平均所蔵数	(D) Bing件数の 平均値
否定本ダミー	0.142 (0.253)		25.975				
出版社コード	0.414 (0.094) ***		75.843				
選定図書	0.871 (0.266) **		159.580				
書評数	0.266 (0.163)		48.772				
価格(千円あたり)	-0.181 (0.025) ***		-33.060				
出版年	-0.011 (0.037)		-2.096				
Bing件数 (切片)	0.038 (0.018) *		7.020				
2 x 対数尤度	-992.779						
AIC	1010.8						
サンプルサイズ	90						
†:p<0.1 *:p<0.05 **:p<0.01 ***:p<0.001				計	91	14,884	163.6 13.08

* 岩波書店刊行書籍を除く

7 新刊書籍市場との関係

2019年4月～5月発行のAmazon.co.jpにおけるカテゴリ「文学・評論」「ビジネス・経済」に属する書籍600タイトルについて、2019年5月～2020年3月の毎月、全国1,326自治体の所蔵のほか、Amazon.co.jpのランクや古書供給数ほかを調査し、パネルデータとした。

表11-2 所蔵数とln月間売上部数ほか要因の分析				表11-3 貸出数とln月間売上部数ほか要因の分析			
	(a5)	(a6)			(b5)	(b6)	
ln前月所蔵数	-0.055 *** (0.013)	-0.055 *** (0.013)		ln前月貸出数	-0.056 *** (0.012)	-0.056 *** (0.012)	
BcAmazon需要	1.252 *** (0.098)	1.263 *** (0.174)		BcAmazon需要	1.253 *** (0.099)	1.178 *** (0.173)	
lnAMP古書価格	0.092 *** (0.021)	0.092 *** (0.021)		lnAMP古書価格	0.094 *** (0.021)	0.093 *** (0.021)	
lnAMP出店数	-0.223 *** (0.039)	-0.223 *** (0.040)		lnAMP出店数	-0.216 *** (0.039)	-0.217 *** (0.040)	
委託期間ダミー	0.087 * (0.034)	0.087 * (0.034)		委託期間ダミー	0.091 ** (0.034)	0.091 ** (0.034)	
電子書籍ダミー	0.018 (0.077)	0.018 (0.077)		電子書籍ダミー	0.023 (0.077)	0.023 (0.077)	
ln前月所蔵数 x BcAmazon需要		-0.002 (0.032)		ln前月貸出数 x BcAmazon需要		0.017 (0.032)	
固定効果：ISBN	Y	Y		固定効果：ISBN	Y	Y	
固定効果：調査月	Y	Y		固定効果：調査月	Y	Y	
修正済決定係数	0.9162	0.9162		修正済決定係数	0.9163	0.9163	
Within R ² 値	0.1036	0.1036		Within R ² 値	0.1046	0.1047	
個体数600, 観測数5386 / ()内はクラスター標準誤差				個体数600, 観測数5386 / ()内はクラスター標準誤差			
†: P < 0.10, *: P < 0.05, **: P < 0.01, ***: P < 0.001				†: P < 0.10, *: P < 0.05, **: P < 0.01, ***: P < 0.001			

表 11-2 は所蔵数（対数値）、表 11-3 は貸出数（対数値）を目的変数としたときの、固定効果モデルによる重回帰分析の結果である。交差項を加えない列（a5）（b5）における ln 前月所蔵数と ln 前月貸出数の係数はそれぞれ-0.1 以下である。

これらを実数に変換して解釈を試みたのが表 11-4 となる。所蔵一点につきまたは貸出一点につき損失売上部数は売上部数の多寡に応じて変化する。中央値または平均値においては、図書館による新刊書籍市場へのマイナスの影響は大きくない。しかし少数の売上部数の多いタイトルに限れば、その影響は無視できないと言える。

表11-4 損失売上部数の売上上位グループ別推計値

グループ名	タイトル数	所蔵一点につき損失売上部数*	貸出一点につき損失売上部数**	月平均売上部数	月平均所蔵数	月平均貸出数	業者Aデータ 総売上部数	全国での 推定売上部数
ベストセラー群	2	-0.731	-0.459	4276.8	1287.7	1044.5	25,000部以上	10万部以上
ミドルヒット群	30	-0.199	-0.146	494.6	546.2	378.1	2,500部以上 25,000部未満	1万部以上10万部未満
上位1/6群	100	-0.153	-0.131	319.8	458.4	272.6	800部以上	3,200部以上
上位2/6群	100	-0.037	-0.050	49.3	291.8	111.0	399部以上800部未満	1,596部以上3,200部未満
全体平均値	600	-0.061	-0.081	70.0	251.6	96.2	765部（平均値）	3,060部
全体中央値	600	-0.014	-0.026	10.0	157.0	43.0	203部（中央値）	812部

* 所蔵一点につき損失売上部数 = (月平均売上部数 × 4 × -0.055) ÷ (月平均所蔵数)

** 貸出一点につき損失売上部数 = (月平均売上部数 × 4 × -0.056) ÷ (月平均貸出数 × 2)

8 図書館所蔵まとめ

・1)需要か質か+2)主題の多様性

需要は所蔵に関係する重要な要因である。このほか、出版社の信用の高さは所蔵を有利にし、学修参考書やマンガといった特定の表現様式は所蔵を不利にする。このほか様々な要因と関連した所蔵への弱い濃淡がある。

・3)対立する意見間での中立性

タイトルの点数が偏っているため、対立意見のある書籍もどちらかに偏って所蔵されているように見える。他の要因についても考慮すると、特定の出版社に対する信用が強く関係する。

・4)書籍市場との関係

図書館所蔵によるマイナスの影響は、大半の書籍に関して大きくない。ただし、一部の需要の高いタイトルについてはそうではない。

9 小売書店支援論ふたたび

定価購入およびベストセラー書籍の所蔵数の抑制は、地元小売書店支援になる可能性が高い。ただし、それら書店との定価での取引は、大手納入業者と比較した場合の、購入できる資料数の減少とサービスの低下を確実にもたらす。小売書店支援をするうえでは、地域の読書環境をどう設計するかについてのグランドデザインを考える必要がある。

《Memo》

分科会一覧

<第1分科会 図書館サービス①> ※後日配信有

(会場：会議室 910 定員：126人)

「みんなの図書館とまちづくり」

講師 ^{ど ひ} 土肥 ^{じゅんや} 潤也氏 (みんなの図書館さんかく館長)

本をきっかけに人とまちがつながる「みんなの図書館さんかく」の実践から、住民参加型のまちづくりの可能性とその広がりを考えます。

<第2分科会 図書館サービス②> ※後日配信有

(会場：会議室 1002 定員：69人)

「誰もが楽しめる電子図書館 ～将来性と活用のヒント～」

講師 ^{や ね} 家禰 ^{じゅんいち} 淳一氏 (愛知大学文学部人文社会学科教授)

電子図書館の導入や活用のヒント、市町村での実践例などを紹介しながら、導入済み・未導入の図書館が情報を共有できるワークショップを行います。また、メディア・リテラシーをテーマに、フェイクニュースやSNS、認知バイアスといった話題を交えながら、図書館が果たす役割について解説します。

<第3分科会 子どもの読書活動> ※後日配信有

(会場：中ホール 定員：500人)

「へなそうるの森から くらしと物語」

講師 ^{わたなべ} 渡辺 ^{てつた} 鉄太氏 (児童文学者・翻訳家)

オーストラリア在住の講師は、絵本を中心にした執筆活動のかたわら「メルボルンこども文庫」を主宰されています。今回は文庫活動や児童文学に携わった経験、幼少期に父親の書庫で多くの本に触れた読書体験などから、子どもと読書についてお話いただきます。

<第4分科会 学校図書館> ※後日配信有

(会場：交流ホール 定員：249人)

「POP 王に学ぶ！学校図書館で活かす POP の力」

講師 ^{うちだ} 内田 ^{たけし} 剛氏 (ブックジャーナリスト)

全国学校図書館 POP コンテストアドバイザーとしても活躍する講師が、効果的な POP 表現やその活用事例を通して、学校図書館の魅力発信と読書推進の可能性を語ります。※持ち物 御自身や所属の図書館で作成した POP

<第5分科会 大学図書館> ※後日配信有

(会場：会議室 1001-I 定員：114人)

「図書館と展示～企画展示が導く知識との出会い～」

講師 ^{かわい} 河合 ^{いくこ} 郁子氏 (東京都足立区 図書館サービスデザイン担当課長)

的場 ^{ま と ば} ひろし氏 (静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科教授)

さまざまな図書館で、個性的で工夫を凝らした展示が行われており、展示は図書館の資料やサービスをアピールする重要なツールとなっています。一方で、図書館職員の間には展示の理論やノウハウが共有されているとは限りません。当分科会では、企画立案の手法、学生・教職員や他部署・外部機関との連携、展示レイアウトの効果的なデザインなど、図書館における展示について考えます。

※後日配信のお申込みは、令和7年12月下旬を予定しています。

事例報告「静岡書店大賞：静岡県の読書推進に向けて」

講師 ^{かわぐち} 河口 ^{まさや} 雅哉氏 (第12回静岡書店大賞事務局長)

全国でも珍しい官民一体の地方文学賞である静岡書店大賞。有志活動であるが故の運営の難しさもある中、活動を通じて出版文化を活性化させていきたい、次世代の作家を応援していきたい、「静岡の灯を消さない」という熱い思いを語ります。

調査報告「人口減少社会における図書館と地域の関係性とこれからのあり方」

講師 ^{おおたに} 大谷 ^{やすはる} 康晴氏 (青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科教授)

図書館は、その発展の結果、地域社会に大きな影響を及ぼすようになりました。書店との問題は直接的な利害関係が発生しやすいゆえ話題になりやすいですが、人口減少や要介護リスク減少といったものとも図書館の存在の関連が見え隠れしています。こういった状況とこれからの図書館のあり方について簡単に報告いたします。

研究協議 15:40～16:30 ※午前の講演会、午後の事例報告、調査報告をふまえた内容となります。

司会・コーディネーター 大場 博幸氏

登壇者 河口 雅哉氏、大谷 康晴氏、高橋 健二氏 (静岡県立中央図書館館長)

情勢報告 16:30～16:55

植松 貞夫氏 (公益社団法人日本図書館協会理事長)

◎ 第1～5分科会終了後、研究協議、情勢報告の聴講を希望される方は参加可能 (申込不要) です。

◎ 午前の講演会、午後の事例報告、調査報告をふまえた内容となります。

※後日配信のお申込みは、令和7年12月下旬を予定しています。

7 講師おすすめの本

講演会 大場 博幸 氏

- 1 『図書館の公的供給』大場博幸（樹村房、2025）
- 2 『日本の公立図書館の所蔵』大場博幸（樹村房、2024）

第3分科会 渡辺 鉄太 氏

- 1 『心に緑の種をまく 絵本の楽しみ』渡辺茂男（岩波現代新書、2016）
- 2 『わが青春 渡辺茂男 静岡から米国までの旅』渡辺茂男（児童図書研究会、2023）
- 3 『子どもと文学』石井桃子、いぬいとみこ他（福音館書店、1967）
- 4 『こどもとしょかん』181 から 187 号まで（東京子ども図書館の機関紙、2024 から 2025）
- 5 『ぱくぱくはんぶん』渡辺鉄太（福音館書店、2021）
- 6 『緑の森のバイリンガル』渡辺鉄太（三修社、2005）

第4分科会 内田 剛 氏

- 1 『全国学校図書館POPコンテスト公式本 オススメ本の作り方(全2巻)』（ポプラ社、2024）
- 2 『星の教室』高田郁（角川春樹事務所、2025）
- 3 『読書感想文が終わらない！』額賀零（ポプラ社、2025）

注意事項

- ・ グランシップ各会場への飲料の持込みは、中身がこぼれない容器（ペットボトルなど）のみ可能です。
- ・ 昼食を持参した場合は、中ホール、会議室903、904、908でお取りください。中ホール以外の分科会会場は準備中のため、昼食はお取りいただけません。
- ・ 弁当等のごみは、必ずお持ち帰りください。
- ・ 第4分科会参加者はエスカレーター、第1・2・5・6分科会参加者はエレベーターで移動してください。
- ・ 分科会の受付開始は、午後1時からです。中ホールが会場となる第3分科会参加者は、改めて受付をお通りください。

令和7年度 静岡県図書館大会運営委員会

委員長	山梨	和美	(静岡市立中央図書館)
副委員長	枝村	賢美	(浜松市立中央図書館)
第1分科会	飯田	幸	(静岡市立中央図書館)
第1分科会	鈴木	敏正	(焼津市立大井川図書館)
第2分科会	木村	陽菜	(熱海市立図書館)
第2分科会	望月	美恵	(沼津市立図書館)
第2分科会	内田	圭亮	(菊川市立小笠図書館)
第3分科会	鈴木	紀予	(浜松市立中央図書館)
第3分科会	佐藤	葵	(函南町立図書館)
第3分科会	勝山	高	(静岡県読み聞かせネットワーク)
第4分科会	林	容子	(静岡県読書推進運動協議会)
第4分科会	佐藤	絵巳	(静岡市立南部小学校)
第4分科会	山田	直美	(静岡県総合教育センター図書室)
第5分科会	谷	真愛子	(静岡大学附属図書館(浜松分館))
第5分科会	井出	直樹	(静岡文化芸術大学)
技術支援	入月	卓也	(静岡県立中央図書館)